

今週（8月29日から9月2日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、積みの中盤に差し掛かったものの、取り急ぐ動きは見られず、引き続き落ち着いた地合いで推移した。

日銀当座預金残高が300兆円を超えて推移する中、無担保コールO/Nは、29～30日は▲0.06～▲0.03%の幅広いレンジでの出会いとなった。31日は月末でビッドサイドが少なく、▲0.065～▲0.03%の出会いと若干レートが低下した。月初めの取引となる1日も月末の地合いを引き継ぎ、▲0.065～▲0.03%の出会い。週末の取引となる2日は、財政等要因で不足日であることが影響し、▲0.06～▲0.03%の出会いとレートがやや上昇した。無担保コールO/N加重平均レートは週を通して概ね▲0.04%台後半で推移した。ターム物に関しては、期内物で▲0.02%近辺の出会いが見られた。期越え物に関しては20、21日に日銀金融政策決定会合を控えていることもあり、特段目立った出会いは見られなかった。

固定金利方式の共通担保資金供給オペに関しては、1日に2W・8,000億円がオファーされ、落札額1,660億円(期落ち額1,891億円)と札割れになった。

●レポ市場

今週のGC O/N物は、29日のT/Nが▲0.09%中心の出会いで始まったが、S/Nでは月末等の要因があったことから、レートは▲0.10%に低下した。しかし、30日のT/Nでは様子見をしていた売り手が資金調達に動いたため、レートは▲0.085%まで上昇。その後もレートは横ばい圏内で推移した。1日のS/Nでは短国3M物発行等の要因があったものの、売り手の資金調達意欲は弱く、レートは▲0.085%の出会い。2日のS/Nでは短国買入オペ等の要因で、レートは低下し、▲0.09%中心の取引となっていた。

SCは、新規・ロールオーバーともに幅広い銘柄で取引が見られた。個別銘柄では、2年債365～367回、5年債127～128回、10年債340～343回、20年債155～157回、30年債49～51回、40年債9回にビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、先週のオペの結果からマーケットの品薄状況が確認されたことで、週を通して閑散ながらも、全般的に堅調に推移した。

1日は3M物の入札が実施された。WI取引で▲0.25%の出会いが見られる中、平均落札利回▲0.2425%、按分落札利回▲0.2304%と堅調な結果となった。セカンダリーは引け際に▲0.265%で小額の出会いが見られた程度と小動きであった。

2日には短国買入オペが7,500億円でオファーされた。応札額が13,570億円にとどまるなど品薄なマーケットを反映し、平均利回較差▲0.008%、按分利回較差▲0.018%と強めの結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、週間償還総額11,400億円程度に対し、電機、鉄鋼、不動産、商社業態から大型発行案件が見られ、週間発行総額は11,400億円程度と、償還と同程度となった。月末の市場残高は14兆7,584億円(前月比+1,407億円)と資金需要期にも関わらず、増加は限定的であった。前年比では、銀行・証券業態が大幅に減少した一方で、事業法人は8,400億円程度の増加となった。これは、発行は少ないながらも、低レートを受けて発行期間が延びていることによるものと考えられる。

発行レートは、発行が高んでいる一部銘柄で上昇が散見されたものの、運用ニーズは底堅く、月中物で0～0.005%、9月末越え物では0%に集中し、一部ではマイナスの発行も見られた。

●短期金融市場関連指標

	日経平均(円)	新発10年物 国債利回り(%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
8/29(月)	16,737.49	△ 0.070	101.92	△ 0.046	△ 0.090	3,007,100
8/30(火)	16,725.36	△ 0.078	101.94	△ 0.046	△ 0.095	3,023,300
8/31(水)	16,887.40	△ 0.069	102.96	△ 0.048	△ 0.088	3,035,000
9/1(木)	16,926.84	△ 0.045	103.37	△ 0.049	△ 0.088	3,026,000
9/2(金)	16,925.68	△ 0.025	103.30	△ 0.047	△ 0.087	3,012,200

来週（9月5日から9月9日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
9/5 (月)	きさらぎ会にて黒田総裁講演 9月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50) 7月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 9:00)				米国祝日(Labor Day)
9/6 (火)		30Y 8,000億円 9/20発行			8月のISM 非製造業景況指数 8月のFRB 労働市場情勢指数 4-6月期のユーロ圏GDP確報値
9/7 (水)	8月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 7月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)	TB6M 35,000億円 9/12発行			米ページブック
9/8 (木)	在日米国商工会議所にて中曾副総裁講演 4-6月期のGDP 2次速報(内閣府 8:50) 7月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 7月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30) 8月の景気ウォッチャー調査(内閣府 15:00)	TB3M 44,000億円 9/12発行	5Y 24,000億円 9/20発行		ECB定例理事会(金融政策発表) 7月の米消費者信用残高
9/9 (金)	8月のマネーストック(日銀 8:50) 7月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30) マクロ加算残高にかかる基準比率(日銀 17:00)	エネルギー 対策借入 6,000億円 9/20借入			7月の米卸売売上高

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給予因
9/5 (月)	1,400	▲ 9,500	▲ 8,100	全店共通 CP買入 社債買入 国債補充 成長基盤強化	▲ 1,900 ▲ 300 ▲ 100 200 ▲ 100	1,700	▲ 500	▲ 8,600	TB3M発行 ▲44000 償還43300
9/6 (火)	2,000	3,000	5,000	国債買入 短国買入		7,500 12,500	20,000	25,000	
9/7 (水)	1,000	1,000	2,000				0	2,000	交付税借入 ▲10500 期日10500
9/8 (木)	0	▲ 2,000	▲ 2,000				0	▲ 2,000	
9/9 (金)	1,000	1,000	2,000	CP買入		5,000	5,000	7,000	交付税借入 ▲10500 期日10500
週間合計	5,400	▲ 6,500	▲ 1,100	—	▲ 2,200	26,700	24,500	23,400	

9/5は日銀予想、9/6以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、5日に短国の発行があり、若干の不足日となることが見込まれるものの、週を通して1兆円以上の資金過不足となる日は無いと見込まれる。

短国市場は7日に6M物、8日に3M物の入札が予定されている。今月は短国買入オペの月間オファー額が前月比で減少することが見込まれている一方、海外勢の買いは引き続きしっかりとおり、入札の結果が目玉される。

来週のCP市場は6日にCP等買入オペが予定されている。前回から1,500億円増額の5,000億円でオファーされる予定となっており、落札レートの低下が見込まれる。

主要なイベントとしては、8日に4-6月期四半期GDPの改定値、ECB定例理事会などが挙げられる。また、2016年9月～11月の積み期間に適用される、日本銀行当座預金のマクロ加算残高にかかる基準比率が9日の17時に公表される予定となっている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何かの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等を負担頂くことがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。